

金沢市立明成小学校

【はじめに】

本校は、金沢駅近くに位置し、平成7年4月に旧瓢箪町小学校と旧此花町小学校が統合して開校した。全校児童は275名(5月1日現在)、職員は34名である。

学校の北側には浅野川が流れ、西側には大きな境内をもつ安江八幡宮や東別院、西別院の他、由緒ある寺社が数多くある。そのため、四季を通じて子ども達が自然を目にする事が出来る。また、ふらっと通りや安江町商店街など歴史と伝統を重んじながらも新しい感覚を取り入れた店舗が軒を連ねる商店街があり、地域の方々は郷土愛に満ちている。

2011年度にユネスコスクールの認定を受け、環境や文化、福祉、国際理解などをテーマとして持続発展教育の実践に取り組んでいる。

たくさんの絆をつなごう！

1 ユネスコスクールとしての取組

・1年生「きせつとなかよし」

春から秋にかけて一人一鉢でアサガオを大切に育てた。花が咲くとたたき染めや色水遊びをしたり、秋になるとつるでリースを作ったりして楽しんだ。種から育てた草花が季節で変化していく様子を観察し他の草花にも関心を持つことができた。

2学期は秋見つけに近隣の公園やお寺に出かけ、色々な秋の自然物を見つけた。見つけた秋の自然物で「あきランド」を計画し、自分達で楽しみながら様々な遊



びを考えた。クラス全体で楽しむために、アドバイスやいいところを出し合い、グループで工夫しながら取り組むことができた。「あきランド」はクラスごとに作り上げたものを1年生で交流し、人に楽しんでもらう満足感を味わうことができた。また、春から栽培していたさつまいもを収穫し、ふかしいもにして食べたり、小芋でいもばんをして遊んだりして秋を満喫して楽しむことができた。



・2年生「町をたんけん大発見」

1学期には、自分たちの町を探検して、自然(彦三緑地の樹齢400年の大木)・お店(別院商店街)・名所(東別院や安江八幡宮)などに会い、地域へのつながりを感じ、愛着をより深めることができた。また、2学期には、地域に住んでいる方々との交流活動を行い、公民館と学校で交流会を開いた。最初は公民館で地域の方と一緒に「水引き体験」を作成した。子どもたちは、公民館で同じ机にすわった地域の方に教えてもらいながら、一緒に楽しく創作活動に取り組んだ。

その後、地域の方々を学校へお招きし、交流会を行った。子どもたちで企画・運営し、司会進行も務めた。地域の方々と楽しく仲良く関わるにはどうしたらよいかを考え、生活科で作成したおもてなしカードをプレゼントし、よさこいソーランを披露したり地域の方と合唱したりした。交流会を通して、地域のあたたかさに気づき、明成校区の良さを改めて実感することができた。

・3年生「KHP～金沢魅力発見プロジェクト～」

1学期は給食の残量調査を行い、「食」に目を向けた。同時に、金沢に根付く食文化である和菓子について調べた後、和菓子作り体験をした。2学期には、地域に伝わる獅子舞について詳しく調べた。1月には明成ユネスコ交流会として、獅子舞の歴史や道具、舞い方などについて全校や地域の方に発信することができた。



3学期は和菓子文化と結びつく『茶道』について、校区にお住まいの先生をお招きして茶道体験をした。本校にある明成の間という茶室で、礼儀や作法についても教えていただき、金沢の伝統文化を強く印象付けることとなった。

・4年生「伝統が息づくまち明成～受け継いでいきたいもの～」

1学期には、瓢箪町の由来であるヒョウタンを育てながら、本やインターネットでヒョウタンについて調べたり、地域のボランティアの方から教えていただいたりして、「ひょうたん壁新聞」にまとめることができた。育ったヒョウタンの実は、飾りやおもちゃ等の作品に仕上げた。2学期には、金箔貼り体験や地域の加澤美照工房さんのご協力で加賀象嵌体験を行った。児童は職人さんの技に驚き、金沢が誇る伝統工芸品の美しさに魅了されていた。また、金沢の偉人について、ふるさと偉人館や本などで調べ、「研究レポート」にまとめた。金沢には、すばらしい功績を残したたくさんの偉人がいることに児童は驚いていた。3学期の明成ユネスコ交流会では、ひょうたん、金箔、加賀象嵌の3つについて、ポスターや紙芝居、クイズ等を織り交ぜながら分かりやすく発表することができた。明成や金沢の魅力を自分で発見するだけでなく、感じたすばらしさを他学年に広めることができた。



・5年生「MHPⅡ 魅力発見プロジェクト ～金沢の自然と文化～」

金沢の自然では、春の遠足で里山探検をして里山の自然を体全体で感じ、その後、里山について調べ、調べたことをもとに「里山クイズ」を作成した。そして、これまでの活動を「里山活動報告書」にまとめた。さらに、里山についての学習をするうちに見えてきた環境問題に目をつけ、酸性雨やオゾン層の破壊、地球温暖化など、様々な環境問題について調べ、よりよいくらしのために自分たちができることやしたいことを「環境問題提案書」にまとめた。



金沢の文化では、「食文化」を主として扱った。秋の遠足では、大野町の醤油や味噌、新鮮な魚介類に触れ、金沢の海沿い地域の食文化を学んだ。また、加賀野菜を使用したお弁当作りのお手伝い・地域への配布をしたり、加賀野菜の一つである五郎島金時を使ったスイートポテト作りを学年活動として行ったりした。明成ユネスコ交流会では、学習したことを模造紙にまとめ、紙芝居やクイズ、実験など工夫された方法で他の学年に向けて発表をし、金沢の自然と文化のすばらしさを全校に広めることができた。

・6年生「金沢のよさを未来につなげよう」

本校は、金沢駅を校区に含む地域であるため、子ども達は新幹線開業以来、多くの観光客が訪れてきていることを実感している。観光客は、どんな魅力を求めて金沢を訪れているのか、金沢にはどんなよさがあるのかを探っていくことで自分達の町、金沢の未来像を創っていくことにした。



金沢の名所（金沢城、兼六園、21世紀美術館）に実際に出向きその魅力を自分の目で確かめた。児童間で見学してきたことを交流する中で、金沢のよさを意識できるようになってきた。自分が未来の金沢に残していきたいキーワードを中心に、金沢駅や近江町市場など観光客や地元の方が多く集まる場所で、インタビュー調査も行った。学習のまとめとして、パンフレットや意見文を書き、明成ユネスコ発表会で他学年にも伝えた。

2 成果と課題

各学年とも生活科や総合的な学習の時間を中心として、各教科での学びにつなげたり、広めたりしながら活動を進めていった。その結果、体験しながら学びを積み重ねることができ、人や地域とのつながりを深めることができた。

今年度は、ワークショップ形式で学習してきたことを交流する「明成ユネスコ交流会」を開催した。この交流会に向けて、子ども達は、課題意識をもって学習を進め、学んだことを整理し、まとめ、発表する力がついてきた。また、各学年の取組を掲示することで、年間の見通しを持つこともできた。

今後の課題として、学校全体としての取組のさらなる共有化や人材の発掘、他校との交流、時数の確保などがある。今後も他教科との関連をより一層深め、学びの力を伸ばしていきたいと考えている。